



## 「学問への扉」開設にあたって～ 全学教育推進機構 機構長インタビュー



マチカネゼミ

2019年度4月より「学問への扉（マチカネゼミ）」が開設されます。  
開設にあたり 全学教育推進機構 佐藤宏介機構長を直撃しました!!



**Q1.** あらためて、「学問への扉（マチカネゼミ）」とはどのようなもの？

**A1.** 2019年度の新入生から適用となる新カリキュラムで新設される必修2単位の初年次導入セミナーです。入学直後の春～夏学期に、15名程度の少人数クラスが約250クラス開講され、新入生約3400名は時間割にそれぞれ二つずつ指定された時間で約70クラスの中から希望のものを選択します。各クラスに文系・理系・医歯薬系の学生ができるだけ混在するよう、時間割に工夫をしています。

**Q2.** 開設のねらいは？

**A2.** 新入生は、それぞれの少人数クラスにおいて学問的探究活動の基礎と姿勢を学ぶことになります。具体的には、何らかの課題や文献などのテーマ探究を行い、その過程で教員と履修生との間、そして履修生同士の間での学術的対話を通じてアカデミックスキルを養い、あわせてレポートやプレゼンなどの発信力の向上を目指します。高校までの受動的・知識蓄積型の学びから、大学での主体的・創造的な学びへと、入学直後の早い段階でマインドとスタイルの転換を促すことが狙いです。

**Q3.** なぜ必要？

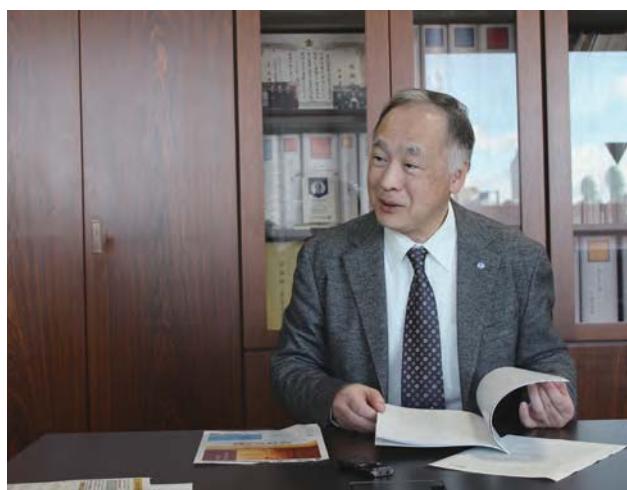
**A3.** 子供の人口減から、知識活用や対面コミュニケーションのスキル低下が問題となっています。その対策として、SSHやSGHなどの高校では「課題研究」を教育課程に組み込んでいるものの、全ての新入生がこうした教育を高校で経験しているわけではありません。むしろ経験していない方が多数派でしょう。このギャップを埋めるためにも、入学当初の早い段階で、研究大学たる大阪大学を現に担っているプロフェッショナル研究者との直接対話を通じて「学び」に対する意識を変え、その後の学部課程で必要となる学びのスタイルをしっかり身に着けさせる必要があります。

**Q4.** 大阪大学の教育戦略における位置づけは？

**A4.** OUビジョン2021として掲げている、「学問の真髄を極める専門性」、「教養」、「国際性」、およびそれらの総合力としての「デザイン力」を備えた人材養成の出発点です。大阪大学は指定国立大学として、「社会変革に貢献する世界屈指のイノベーティブな大学」を社会との「共創」によって目指しています。学生にとって「学問への扉」は、異なる分野の他学部生との協働を通じて、俯瞰的な視点や課題解決の道筋を意識する最初の場となります。

**Q5.** 全学教育推進機構長として「学問への扉」担当の先生方にメッセージを

**A5.** 先生方が教育研究にかけている生き様にこそ、新入生は感動します。先生方それぞれの「共創マインド」「阪大スタイル」を新入生に是非分けていただければ幸いです。



# 報告! 「学問への扉」 開設記念イベントWEEK

2018年11月11日～15日

詳しい内容や当日の様子、資料については  
以下の全学教育推進機構のホームページ  
をご覧ください。<http://osku.jp/h0429>



## シンポジウム 初年次教育の再構築 -新しい形の高大接続と大学初年次教育を考える-

カリキュラム改革の目玉として、今年度新たに始まる初年次の必修科目、「学問への扉（愛称、マチカネゼミ）」の開設を記念して、11月11日（日）に**初年次教育の再構築 -新しい形の高大接続と大学初年次教育を考える-**と題したシンポジウムが基礎工学国際棟で開かれました。佐藤宏介機構長の「学問への扉」の概要説明の後、同様な科目を先行開設している東京大学と大阪府立大学の場合について、東京大学大学院総合文化研究科の増田建教授と大阪府立大学副学長の高橋哲也教育推進本部長から紹介があり、続いて、高大接続の立場から、SSHとSGHに詳しい大阪府立懐風館高等学校長の柴浩司先生と京都府立鳥羽高等学校の田中誠樹進路指導部長から、高等学校での課題研究等への取り組みについて報告がありました。その後、この5人をパネリストとするパネルディスカッションが行われ、客席を交え初年次ゼミナールの具体的な運営方法、高校生・大学生の実態についての認識など、興味深い議論が展開されました。



## FD研修

11月13日（火）に豊中キャンパス、14日（水）に吹田キャンパスで開催されたFD研修には、それぞれ40名、75名が参加しました。まず、佐藤機構長による「学問への扉」の開設趣旨説明の後、佐藤浩章教育学習支援部准教授による「授業設計と授業運営」の説明がありました。授業目的、到達目標、教育方法、評価方法といった授業設計の段階ごとに、教育学に裏付けられた理論を踏まえて、説明がなされました。適宜、参加者間でのディスカッションを入れながら、本研修自体がアクティブラーニング型で実施されました。参加者は非常に熱心にワークに参加しながら学んでいました。また、アクティブラーニングや少人数授業における授業運営のティップスも紹介されました。具体的には、この授業では、教員は知識を教え込むのではなく、「知のファシリテータ」としての学生の主体的学びを促進することが求められること、グループワークを挿入する場合は学生の役割分担が重要となるなど、授業にすぐに役立つ実践的なコツが複数提供されました。



## 座談会 学生時代に開けた扉

11月15日（木）昼休み、サイエンス・スタジオAにて「学問への扉」開設記念座談会～機構長他4名が語る「学生時代に開けた扉」を開催しました。当日は中村征樹全学教育推進機構准教授の進行のもと、佐藤宏介機構長、水谷規男高等司法研究科教授、川畠貴裕理学研究科教授、竹村景子言語文化研究科教授の4名から、自分が学問の面白さに気付いたきっかけ、教員としてこれまで行ってきた少人数型・対話型の授業実践、「学問への扉」への想いなどが語られました。水谷教授による「学問への扉」開設の狙いについての説明や、佐藤機構長による新入生にむけたメッセージからは、この新設科目に対する熱い思いが伝わってきました。



Pickup!

教えて先生!

教育学習支援部

家島 明彦 講師

Q

5年ほど前にオックスフォード大学の研究者が発表した論文をきっかけとして、「コンピューターやAI（人工知能）の発達によって10～20年以内に今ある職業の多くが消えてなくなる」といった衝撃的なニュースが話題になったことがありました。2020年「なくなる仕事」リストを掲載した週刊誌もありました。ところで、世の中に「職業」って何種類あるのか、ご存知ですか？

答え・詳しい解説は  
こちらから→→→

<http://osku.jp/u0332>



# イベント報告

## 池坊専好氏講演会 を開催しました

先端教養科目として新設された「女性リーダーとの対話」の第1講を記念し、2018年10月9日(火) 大阪大学会館にて、華道家元池坊次期家元の池坊専好氏の講演会を開催しました。

本講演会には受講学生の他、西尾総長や理事、教職員、さらに華道家元池坊の関係者など、総勢325名が参加。講演では、一つの作品にいろいろな個性が調和しているからこそ美しいという、華道の「命のありとあらゆる状態を美しい」という考え方方に触れ、池坊の長い歴史と調和した、ご自身の国際的な活動や「生け花甲子園」「華道男子」などの新たな挑戦についてお話しいただきました。

講演後は「芸術を評価することの意義は?」「実家で花屋を経営している母に一言」など、学生からの活発な質疑に専好氏から洞観あるお答えをいただき、大好評のうちに終了しました。



「枯れた花にも華がある」と語る池坊専好氏

## 全国の理系女子中高生のための 「ハンダイ理女フェス!!」 が開催されました！

2018年9月9日(日)、昨年度に引き続き、全学教育推進機構のステューデント・コモンズや大講義室等を会場として「ハンダイ理女フェス!!」が開催されました。このイベントは、全国の女子中高生に理系で学ぶことの楽しさや魅力、将来的キャリアを知ってもらい、理系進路選択を応援することを目的として開催されました。当日はあいにくの大雨でしたが、北は山形県、南は熊本県まで、全国から355名の女子中高生と200名を超える保護者や引率教員にお越しいただき、大変盛況なイベントとなりました。また「会ってみよう！阪大の総長」「触れてみよう！理系女子の研究発表」「相談してみよう！阪大女子学生に直接聞ける進路相談会」などの企画とともに、企業等15機関によるイベントも開催されました。実社会の様々な分野から生の声を聞くことで、進路に悩んでいる女子中高生や保護者も、理系に進学した後のキャリアを具体的にイメージすることができたようです。



総長と理系学生が阪大のイマを語り合いました。入学して半年の1年生が、阪大生活の楽しさをイキイキと話し、総長も温かなエールを中高生に送りました。(大講義室にて)



大阪大学グローバルサイエンスキャンパス

大阪大学の教育研究力を生かしたSEEDSプログラム  
～傑出した科学技術人材発見と早期育成～

SEEDSプログラムは大阪大学内の理工系部局の協力のもと、大阪大学の世界最先端の学術研究の場で高校生に研究を体感、実感してもらうことにより、彼らの中の眠っている「科学技術の芽」を発芽させ、将来の科学技術人材を育てるることを目標として、2015年度に全学教育推進機構内にオフィスを構えてスタートしました。これまでの4年間で、各年度約140人、計約600人の高校生が大学教員による最先端の講義を聴き、さまざまな部局の研究室で研究を体験し、留学生と交流しました。講義後の少人数に分かれての議論「めばえ道場」では、「サイエンス・スタジオ」や「カルチエ」を活用し、コモンズのオープンな雰囲気が高校生にも好評でした。受講生からは将来に対する見方や科学への姿勢、そして高校での学習への取り組み方が変わったとの声が多数上がっています。



<https://www.seeds.osaka-u.ac.jp/>

## 第3回大阪大学豊中地区 研究交流会で発表を行いました

2018年12月18日(火)、豊中キャンパス南部陽一郎ホールで開催された「第3回豊中地区研究交流会」において、全学教育推進機構からは教育学習支援部の教員による「人生の意味を考えるワーク (Meaning Mapping Method : MMM) の開発～大阪大学基礎セミナーでの実践を中心に～」(浦田悠特任講師) 及び「MOOC受講者の英語学習意識に関する考察」(権藤千恵特任研究員) と題した2件のポスター発表を行いました。

発表会場では、文理の枠を超えて研究者同士の活発な意見交換が行われると同時に、一般のお客様から多くのご質問をいただきました。これからも大学内外のみなさんにプロジェクトの取組みを知ってもらえるよう、定期的に研究成果を発信していきたいと思います。



## 著書紹介

『アクティブラーニング型授業としての反転授業[理論編][実践編]』  
(森朋子・溝上慎一編、ナカニシヤ出版、2017)

2018年4月～9月、クロスアポイントメント制度により全学教育推進機構にいらっしゃった森朋子先生の主著をご紹介します

反転授業は、ICTや動画を用いた近未来的な教育方法として、今や多くの大学で導入されている。その理由は、教員の大きな悩みである学習者の理解の促進に効果があると言われていることがある。ではなぜ理解が促進するのか、本書ではそのメカニズムを理論と実践の双方から明らかにしている。理論編では、実施されている複数の反転授業において学生調査を行った結果、反転授業が学生の主体性やアクティブラーニングの効果を高めることができた。

また実践編では、現在行われている反転授業の取組の中から文理を問わず実践事例を厳選し、その具体的な授業のデザインや手法を取りまとめた。反転授業は今や時間や場所を超えた学びの提供の機会として、今後さらに大学において展開されていくだろう。その際にぜひ本書を手に取っていただきたい。

全学共通教育部門 森朋子特任教授 (2018年4月～9月)



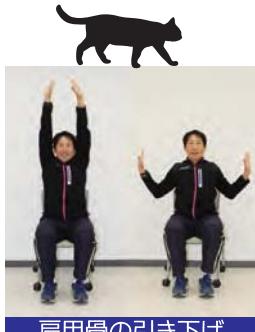
## 授業に役立つ ストレッチ

スポーツ・健康教育部門 藤田 和樹 准教授

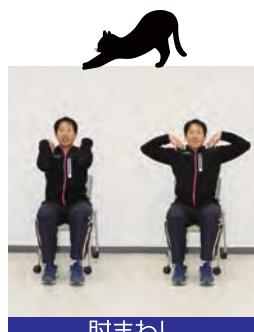
ヒトの身長の約40%は背骨であり、背骨のアライメント不良は肩こり・腰痛の原因といわれています。右の図に示すような姿勢を5年、10年と続けると不良姿勢の固定化が生じ、持続的な肩こり・腰痛状態になります。以下に、授業中にもできる肩こり・腰痛予防にお勧めの体操・ストレッチを紹介します。



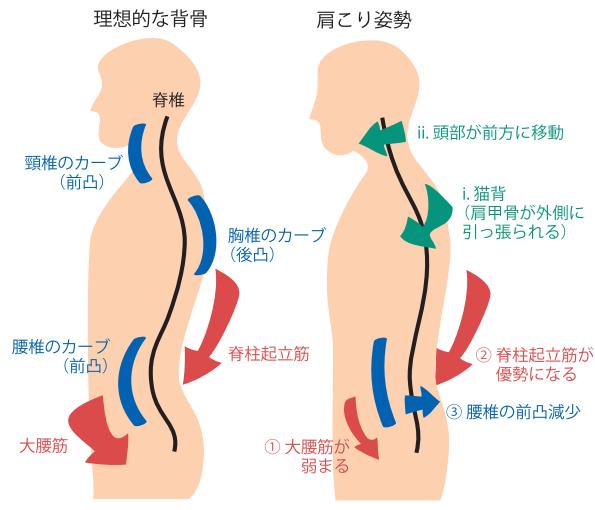
大腰筋のストレッチ



肩甲骨の引き下げ



肘まわし



いすに横に座って足を前後に開脚し、太腿の付け根を伸ばします

両腕を高く上げた姿勢から、手のひらを外側に向かってながら肘を体側まで引き下げます

加齢や運動不足により大腰筋が弱ると腰椎の前凸が減少し、腰への負担が増す(①～③)。これに猫背が加わると、腰への負担がさらに増すとともに“肩こり姿勢”が生じる(i～ii)。

## CELAS NEWS

全学教育推進機構 教員5名が平成30年度大阪大学賞を受賞しました

受賞者および受賞内容は以下のとおりです。

<大学運営部門>

家島明彦

「全学的なキャリア教育・支援の拡充および体制整備」

<教育貢献部門>

安部有紀子

「横断型教育に関するPDCAサイクルの確立と実施」

柿澤 寿信

「横断型教育に関するPDCAサイクルの確立と実施」

大山 牧子

「シラバス作成ガイド等の全学のシラバス整備」

北沢 美帆

「共通教育『履修の手引き』のWEB化および分かりやすい全学教育推進機構HPの構築」



## 編集後記



このニュースレターが出る頃には、君(ヒゴロモソウ)の答え(冬越しの可否)もきっと出ているだろう(K澤)

このニュースレターが出る頃には、五十肩は治っているだろうか(K澤)



ニュースレターへのご意見・ご感想・ご要望はこちらまで [✉ public-relations@celas.osaka-u.ac.jp](mailto:public-relations@celas.osaka-u.ac.jp)